

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正
(令和3年4月1日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：下呂市立たけはらこども園	種別：保育所型認定こども園	
代表者氏名：中島 貴子	定員（利用人数）：120名（117名）	
所在地：岐阜県下呂市乗政1005番地1		
TEL：0576-26-2044	ホームページ： http://www.city.gero.lg.jp/kurashi/node_568/node_756/node_921/node_42127	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 平成25年11月18日		
経営法人・設置主体（法人名等）：下呂市		
職員数	常勤職員： 22名	非常勤職員 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	園長 1名	
	保育士 16名(保育補助2名)	保育士 6名
	栄養士 1名	
	調理員 1名	調理員 1名
	看護師 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室5 ほふく室 未満児保育室 遊戯室 プレハブ保育室1	調理室 事務室 相談室 医務室 トイレ6 倉庫3

③理念・基本方針（※転載）

【保育の理念】

自然の中で遊ぶ体験をしたり、地域の人との様々な活動を通してふれあいながらこの地域に愛情をもたせ、将来を担う子の育成をしていく。

【保育方針】

- ・遊びを通して運動機能を高め、全ての活動の基礎となる力強い体を作っていく保育をめざします。
- ・一人ひとりの良さを認めながら、子ども一人ひとりの出来ることを増やし、次の意欲へと繋げていく保育をめざします。
- ・子ども達がお互いの良さを認めながら共に伸びていけるような保育をめざします。
- ・地域の子育て支援の拠点となれることをめざします。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・地域と触れ合える保育を心がけ、地域行事への参加・デイサービス訪問などの機会を設け、経験の中から「発見」「やさしさ」「思いやり」の心を育てている。
- ・上原地区の子どもたち全員がバス通園であるため、早朝・延長保育・警報時にバスが運休になった時の保育をステーションで行う等の連携を行っている。
- ・園開放、子育て支援センター、保健センターと連携し、未就園児の子育て支援を行っている。
- ・担任制にこだわらず、保育交流を行うことでいろいろな視点から子ども達を伸ばしている。
- ・「統合保育」を軸に、専門的なスタッフとの連携、療育医療ケアの必要な子どものフォローを行い、共に育つ保育を行っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年6月1日（契約日）～ 令和6年3月21日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2回（平成30年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

<やさしさ、思いやりの心を育てる保育に力を注いでいる。>

地域と触れ合える保育を心がけており、地域行事への参加・地域の施設訪問等の機会を設け、社会経験を通じて、様々な気づきを得ていくとともに、思いやりの心を育てていく保育を行っている。訪問時には、帰園した大きい子どもたちが、なにげなく幼いクラスの子の手をつないで玄関に入ってくる微笑ましい様子がうかがえた。

<就学に向けた小学校との連携が密に行われている。>

就学に向けた小学校との連携について、全体的な計画の中に重点的に取り入れられており、総合的学習や園1日入学等、子どもたちと小学生の交流の機会や保育士と小学校教員との意見交換の機会を多く持っている。また、毎年、市主催で就学相談会を行っており、保護者の安心につながっている。

<園舎に様々な工夫が取り入れられている。>

全館床暖房が整備され、廊下も広く、クラスごとに園庭に出る事ができる玄関が設置されている。また、園舎南側の天窓の造りを工夫し、採光を最大限利用する等して、この地域特有の冬の曇天対策が行き届いている。各クラスとも、保育に関する書類等が子どもの目に入らないように収納されており、また、各クラス様々な当番制や遊びにおける自由制作等において、子どもたちが主体的に生活でき、遊びを膨らますことのできる空間づくりがなされている。

＜地域交流の拡充に向けて、取り組んでいる。＞

地域の連携関係を大切にしながら地域性を活かした取り組みを行っている。園庭開放、畑づくり、上原地区や竹原地区のお祭り等の伝統行事への参加、地域の施設訪問等を通して、広く地域交流に取り組んでいる。また、地域の未就園児、小学校等との交流を行っている。

◇改善を求められる点

＜事業計画の充実に向けたさらなる取り組みに期待したい。＞

事業計画は、市の中・長期計画を踏まえ、園としての単年度の事業計画を策定している。保育・児童福祉制度動向や変化するニーズを把握し、園の地域性や独自性を保育に反映させるとともに、一年間で取り組むべき内容を事業計画として策定しているところであるが、今後ともさらに、人口動態、地域ニーズや人材確保、運営効率化等、経営環境の変化を見据えた経営全般に渡る事業計画の充実に向けた取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今年度、第三者評価を受けるにあたり、職員間で自己評価を行い、話し合いを通じて、保育内容を見直すことができました。受審を通して、園運営や現場実践の課題を見出し、改善意識や保育の質の向上につなげていきたいと思えます。また地域に根差した園として、地域との関係を大切に、連携を深めていきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。